

卷末資料3 公開イベント「季節のことば、今昔物語。」の実況中継

「“あなたが感じる季節のことば”をたくさん応募していただけるように～」と公開イベント「季節のことば、今昔物語。」(第4回日本気象協会メセナ)が平成24年8月31日(金)に開催されました。厳しい暑さが続いた8月の最終日、東京の最高気温は33.8℃(前日は35.6℃!)でした。このメセナの会場で“季節のことば”第1号の「腕まくり(夏)」ほかが投函されました。

本文では、出演者のディスカッションの雰囲気が伝わるように、話ことばを編集し解説資料を追加しています。



資料:
案内パンフレット

【開催内容】

公開イベント「季節のことば、今昔物語。」

◎第一部 「ことばと暦の歴史」

歌に詠まれた季節感(和歌の朗読):

石井和子氏

(元TBSアナウンサー 日本気象予報士会顧問)

季節の寄席のはなし:

三遊亭右京氏(落語家)

日本の暦の歴史・暦をつくった男のはなし:

岡田芳朗氏(暦の会会長)

片山真人氏(国立天文台暦計算室長)

井上文雄氏

(角川映画「天地明察」プロデューサー)

◎第二部

「お天気キャスターのことばの使い方」

ゲストに金田一秀穂氏(杏林大学外国語学部教授)をお迎えし、お天気キャスターの天達武史氏、南 利幸氏、福富里香氏の3名と一緒に「お天気キャスターのことばの使い方」と題して爆笑トークを繰り広げました。

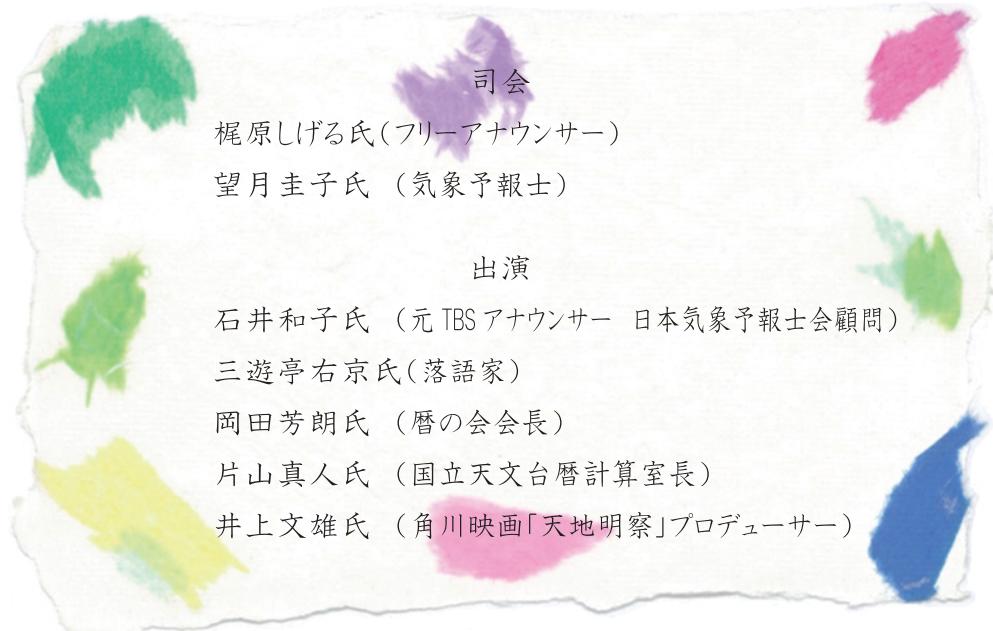
◎第三部

「季節の言葉で遊ぼう!「お天気クイズ」

気象の知識うそ?ホント!!

※第一部と第二部の模様はインターネットにて動画配信されました。

◎第一部 「ことばと暦の歴史」



【オープニング】

(梶原氏)ようこそみなさまお越しいただきまして
ありがとうございます。1時半をまわりまして、いよいよ「季節のことば、今昔物語。」スタートです。
(望月氏)夏休み最後の8月31日。

(梶原氏)あっ、(BGM)流れきました。たえなる調べです。このイベントに臨むときに、何となく季節を感じる言葉、気象にまつわる言葉で勘違いしているものがいっぱいあることに気が付きました。

今日は、このあと4時半までイベントが行われます。上でご覧のみなさま、下のお席もございますのでどうぞお越しください。それから、まだ夏休みの自由課題やっていないお子さんも、今日のネタをちょっと書くとそういう先生感動してくれますよ。

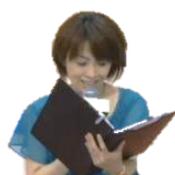
(望月氏)ぜひ参加してください！

(梶原氏)申し遅れました。わたしは「梶原しげる」、そしてもうひとかたは、(望月氏)「望月けいこ」と申します。よろしくお願ひします。

(梶原氏)では、望月さんより趣旨についてご紹介お願ひします。

春分、秋分、七夕など、
季節を表す二十四節氣や五節句もそのひとつ。
しかし、これらの言葉をすべて知っている人はすぐないで
しょう。多くの人にもっと豊かに季節を感じてほしい。
そこで、私たちは現代人が感じている季節感を表現した
「季節のことば」を広く集めたいと考えました。

**あなたが感じた、
季節の盛りや兆し、ぜひ教えてください。**



季節の兆し、

あなたは感じたことはありませんか。
たとえば遠くの空に小さく見える稻光、
鼻先にふんわり匂う雨の気配。

四季の豊かなこの国で、
私たち以外、
そうした変化や兆しを
敏感に読み取っています。

(梶原氏)季節のことば、私が知っている二十四節気では「春分」、「冬至」などがあります。

「今年もいよいよ立春だ」とかいいますね。

「菜種梅雨」なんて素敵な言葉もありますね。

(望月氏)今日は「二百十日」です！

(梶原氏)それは二十四節気とはどういう関係ですか？

(望月氏)二十四節気とは直接関係ないですが、立春の日から数えて二百十日目です。

(梶原氏)実は季節のことばには、言葉の裏付け、背景、歴史、そして科学があるのです。

それを1つ1つひととくことで、われわれはこの時の中で生かされていると実感することができると思います。

今、一緒に、二十四節気のこの時を生きている実感を味わおうじゃありませんか。

それでは、トップバッターをご紹介しましょう。

石井和子さんです。どうぞ(会場拍手)。



サンシャイン 60 噴水広場（2013年8月31日13時45分頃）

【和歌に詠まれた季節感（和歌の朗読）】

(石井氏)

なつとあきと ゆきかうもの かよいじは
かたへすずしき かぜやふくらむ

みなさん、こんにちは！（登場）



(望月氏)石井和子さん、もとTBSアナウンサーで気象予報士。気象予報士会の顧問でいらっしゃいます。朗読の会をやっていらっしゃる、日本版二十四節気専門委員でもいらっしゃいます。

(梶原氏)石井和子さん、今は大学の教授をなさったりアカデミックな世界で活躍されていますが、そもそもとは女子アナのはじりです。“うめきひろしさん”によくつっこまれて、よく耐えてしのんでこられましたね。「よし見返してやる」と気象予報士になって、その後、現在のご活躍があるわけでございます。

石井さん、今日、季節の言葉でお選びになった素材は何ですか？

(石井氏)和歌です！あそこ(会場モニター)に書いてありますけども。

これは千年以上前に、もうすぐ立秋という頃に、立秋は8月の7日ごろですけどもその暑い盛りに夏と秋の雲を詠った歌なのです。

みなさん、空をみあげると、もくもくと夏の雲がでていますよね。この夏の雲の合間の青い空に秋の雲がもう出ていたりいたします。低いもくもくした雲よりも何千メートルも高いところにあって、「はあ～」とはけではいたような巻雲。絹雲と言ったり、ウロコ雲だったりします。

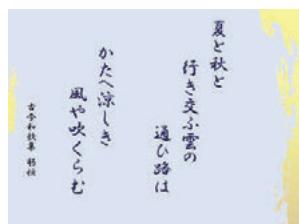
夏雲と秋雲が行き交うのです。

雲は風で流れます。低い雲のところの風と高い雲のところを流れる風が違うから、ちょうど南と北からずーと「こんにちは」して別れていいくように見える。

(梶原氏)それが季節の移ろい、いよいよ夏さんが後退して秋さんがやって来るというきざしになるのですね。

(石井氏)それを8月のはじめにして感じていた。(梶原氏)あつい盛りで！「熊谷じゃあ“暦の上では秋ですが”冗談じゃねえや」って思った時期ですね。

心を入れ替まして、昔からの先人の気持ちで空を見上げてみる、そんな歌の数々をご披露いただけますか。



和歌(会場モニターの表示)

(石井氏)では春からまいりましょう。

短歌（春）



君がため 春の野に出て 若菜つむ わが衣手に 雪は降りつ 百人一首十五番歌 光孝天皇	いにしへの 奈良の都の 八重桜 けう九重に にほひぬるかな 百人一首六十一番歌 伊勢大輔	世の中に 絶えてさくらの なかりせば 春の心は のどけからまし 古今和歌集 在原業平	人はいさ 心も知らず ふるさとは 花ぞ昔の 香にほひける 百人一首三十五番歌 紀貫之	ひさかたの 光のどけき 春の日に しづ心なく 花の散るらむ 百人一首三十三番歌 紀友則	月やあらぬ 春や昔の 春ならぬ わが身ひとつは 元の身にして 古今和歌集 在原業平
--	--	--	--	---	---

きみがため はるののにいで わかなつむ
わがころもでに ゆきはふりつつ

“愛するあなたにあげようと思って、春の野に若菜をつみにでかけたが、早春の春まだ浅いころなので、ふる雪に袖をぬらしてしまいました。”という歌です。これは平安時代のはじめの頃、今から1100年ぐらい前の光孝天皇の歌です。

雪は降っているものの、春の野に若菜をつみに出かけたというのですから、もう立春を過ぎているころ、雪は淡雪ではないかと思われます。

いにしえの ならのみやこの やえざくら
きょうこここのえに においぬるかな

季節はすすんで春だけなわ。それは桜の頃びとでもあります。平安人は桜が大好きでした。当時は「はな」と言えば「桜」を意味しました。そして、「桜」と言えば「山桜」のことです。私たちは「桜」といえばソメイヨシノを想像いたしますね。今も奈良の八重桜は東大寺の知足院にあって、花びらの大きな花を咲かせているということです。

どうして平安人は桜の花が好きなのでしょうか。それは現代の人たちにも通じます。あっという間に咲いたと思ったら“ぱあー”と散ってしまう、その変化に日本人は時の移ろいを敏感にピッピットに感じていたのではないのでしょうか。それは、ともなおさず自分が生きているということを実感することにつながるのではないかと思います。そんなわけで大好きな桜が咲いたらもういつ散ってしまうのか気が気ではありません。

よのなかに たえてさくらの なかりせば
はるのこころは のどけからまし

ひとはいさ こころもしらず ふるさとは
はなぞむかしの かにおいける

ひさかたの ひかりのどけき はるのひに
しづごろなく はなのちるらん

おののこまち
絶世の美女、伝説の小野小町の歌です。

はなのいろは うつりにけりな いたずらに
わがみよにふる ながめせしまに

あっという間に時がすぎて年をとってしまった。本当に身につまされる思いがいたします。同じような歌をもう一つ。

つきやあらぬ はるやむかしの はるならぬ
わがみひとつは もとのみにして

ねんねんさいさい
年々再々、春は同じと思うけれどもまた違う、
月もまた違う。本当にそうですね。美しい四季に
恵まれた日本では、春夏秋冬の豊かな季節
の移ろいそのものに自分たちが生きていることを
実感できる。時の流れを感じることができるように
思うのですけども、みなさんはいかがでしょうか。

つづいては夏にまいりましょう。

はるすぎて なつきにけらし しろたえの
ころもほすちょう あまのかぐやま

春が過ぎていつか夏がきたのであろう。^{あま}天の
かぐやま 香具山には白妙の衣がほしてあるのが見える。

かぜそよぐ ならのおがわの ゆうぐれは
みそぎぞなつの しるしなりける

小川の夕暮れは、みそぎをしているとその夕暮
れは～夏なんだなあという歌なんですね。

ほととぎす なきつるかたを ながむれば
ただありあけの つきぞのこれる

「とっきょ、きょかきょく、きょっきょ」というふうに鳴く
ホトギス。山などでお聞きになったことがあります
か?昔の人もこの鳴き声を聞いた時から夏なん
ですね。

なつのよは まだよいながら あけぬるを
くものいづこに つきやどるらん

短歌 (夏)

春すぎて 夏来にけらし 白妙の
衣はすてふ 天の香具山
百人一首二番歌 持統天皇
まだ有明の 月ぞ残れる
百人一首八十一番歌 後徳大寺左大臣
ほととぎす 鳴きつる方を ながむれば
夏の夜は まだ宵ながら 明けぬるを
雲のいづこに 月宿るらむ 清原深養父
百人一首三十六番歌



短い夏の夜は宵だと思っているうちにもう明けて
しまって、今まで見えていたあの月はどこの雲に
隠れているのだろう。

いよいよ秋にまいりましょう。

短歌（秋）

<p>秋来ぬと 目にはさやかに 見えねども 風の音にぞ おどろかれぬる</p> <p>古今和歌集 藤原敏行</p> <p>鶴 (うづら) 鳴くなり 深草の里</p> <p>千載集 優成</p> <p>秋風に たなびく雲の 絶え間より もれ出づる月の 影のさやけさ</p> <p>百人一首七十九番歌 左京大夫顕輔</p> <p>月見れば ちぢにものこそ 悲しけれ わが身一つの 秋にはあらねど</p> <p>百人一首二十三番歌 大江千里</p> <p>寂しさに 宿を立ち出でて ながむれば いづこも同じ 秋の夕暮れ</p> <p>百人一首七十番歌 良運法師</p> <p>村雨の 露もまだひぬ まきの葉に 霧立ちのぼる 秋の夕暮れ</p> <p>百人一首八十七番歌 寂蓮法師</p> <p>奥山に 紅葉ふみわけ 鳴く鹿の 声きく時ぞ 秋はかなしき</p> <p>百人一首五番歌 猿丸太夫</p> <p>嵐吹く 三室の山のもみぢ葉は 竜田の川の 錦なりけり</p> <p>百人一首六十九番歌 能因法師</p>	
--	---

あききぬと めにはさやかに みえねども
かぜのおとにぞ おどろかれぬる

これには「秋立つ日よめる」という詞書きがついています。秋立つ日は立秋のことです。八月の七日の頃、その夏の暑い盛りに風で秋だなあと感じている、そんな歌ですね。

季節を変えるのは風です。そして秋の風は白で表されます。「北原白秋」の「白」は秋の風を意味しています。

秋風の歌をもう一首。

ゆうされば のべのあきかぜ みにしみて
うづらなくなり ふかくさのさと



秋は月の季節でもあります。月をめでる習慣も平安時代から始まりました。

あきかぜに たなびくもの たえまより
もれいづるつきの かけのさやけさ

つきみれば ちぢにものこそ かなしけれ
わがみひとつ あきにはあらねど

しみじみとした時の流れを感じができるのはとくに秋ではないでしょうか。そして秋の夕暮れはひとしおさびしさを感じさせます。

さびしさに やどをたちいでて ながむれば
いづこもおなじ あきのゆうぐれ

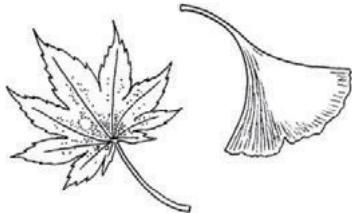
むらさめの つゆもまだひぬ まきのはに
きりたちのぼる あきのゆうぐれ

むらさめ いっとう
村雨というのは、ザーッと一時強く降って止むにわか雨のことです。村雨が止んで真木の葉の露もまだ乾かぬうちに、早くも白い霧が山間をたちのぼっていくことよ。秋の夕べのしめやかさがしみじみと伝わってくる歌です。

さて、秋はいよいよ華やかな紅葉の季節を
迎えて終わりをつげます。やがて冬を前にひ
ときわ華やかに色づく紅葉、それは美しい秋へ
のレクイエム、鎮魂歌でもあります。

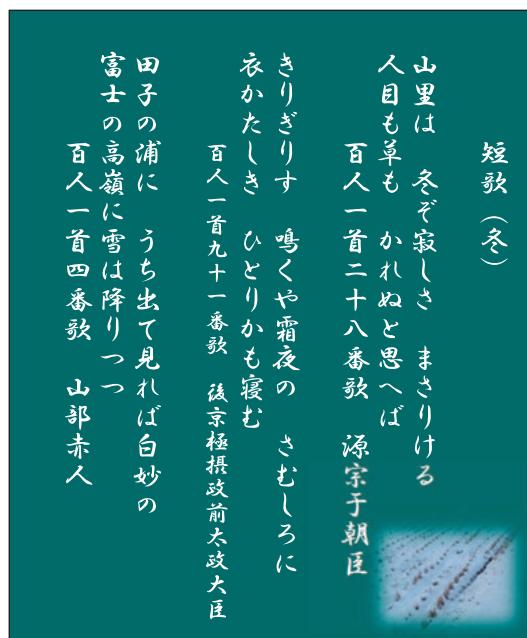
おくやまに もみじふみわけ なくしかの
こえきくときぞ あきはかなしき

鹿の鳴き声ってどんな声なんでしょうね。



あらしく みむろのやまの もみじばは
たつたのかわの にしきなりけり

しぐれが美しい紅葉を散らしていよいよ冬の
季節を迎えます。



やまざとは ふゆぞさびしさ まさりける
ひとめもくさも かれぬとおもへば

山里は冬が来ると一段と身にしみてさみしさが
感じられます。訪ねてくる人もなく辺りの草木も枯
れてしまうから。冬枯れの景色のさびしさと本人
のさびしい心の中とが伝わってくるような気がしま
すね。

きりぎりす なくやしもよの さむしろに
ころもかたしき ひとりかもねん

きりぎりすが鳴く霜ふる夜の寒さも恋人と一緒に
らこれほどまででないだろうに。

やまべのあかひと
おしまいは、みなさまよくごぞんじの山辺赤人
の歌です。

たごのうらに うちいでてみれば しろたへの
ふじのたかねに ゆきはぶりつつ

和歌のなかに垣間見ました平安人たちの季
節感はいかがでしょうか？

(梶原氏)僕らの日本語がおそまつになってい
るなどを感じましたね。「天の香久山」を「天の
はしたて 橋立」だと思っていましたよ。

(石井氏)山のほうでございますよ！

昔の人たちは自然の豊かさの中から、心の豊
かさ、言葉の豊かさも色々紡ぎだしていたとい
う気がいたします。

和歌のほとんどは、百人一首の中からおなじみ
の歌を選んでみました。

(梶原氏)じゃあ、来年の正月には心して百人
一首を。石井さんの素敵なお声、音色とともに思
い出しながらかみしめたいです。石井さんどうも
ありがとうございました。

【季節のことば】

(梶原氏)「季節のことば、今昔物語。」このあとは、庶民生活の四季折々の話題を取り入れた落語の世界を語っていただける、もっともふさわしい方にお越しいただきました。

(望月氏)三遊亭右京さんです。どうぞお願ひいたします。和歌は貴族という感じでしたが、落語は庶民という感じもしますね。

(梶原氏)(冒頭の趣旨説明で)「新しい季節のことばをつくってください」とお願いしましたが、「こんな新しい言葉にしたらどうですか」というヒントをみなさま方に。

右京さんからは落語のはなしを。



(右京氏)ええ、古典落語でいいますと、寄席で春のだしもの、夏、秋、冬とそれぞれ季節によってこの話をするというのがあります。

みなさんの中で落語が好きな方、ちょっと手をあげていただけますか？

(梶原氏)けっこういるじゃないですか。ありがとうございました。今までひとつ大きなブームがやって来ていますね。

(右京氏)はい、ありがとうございます。ボクは寄席に行ったことあるかな？(ボク無言)なんだか(ペットボトルの)水の残りを心配しているようございますけども。

(梶原氏)水の残りがね、もうこれしかないと思うのか、まだこれだけあると思うのかによって人のモチベーションがかわってくる…心理学的な話でした。はいどうぞ。



(右京氏)まあそういうことです。今日(の出演)は、たまたま私がもう十数年、「気象友の会」の会員だったからなのです。

(望月氏)気象のこと詳しいのですね。

(右京氏)今日のメンバーをみますと、それぞれの世界での専門家ばかりでございます。それじゃあ、お客様飽きがくるじゃないかと。嘶家をそこにひとりもってきた方がいいという編集をしたと。

(梶原氏)古典落語の世界からわれわれ新しい発見も得ることができるかもわかりませんね。では、右京さんより「季節のことば」語っていただきましょう。どうぞよろしくお願いします。

-----*-----*

(右京氏)ちなみにせっかくの機会ですから、私の名前「三遊亭右京」と申します。右の京でございます。またの名を落語界では「サンシャイン60」と言われております。

拍手がないようでございますが。われわれですねえ、石井和子さんと違いまして、反応を一番大事にするんです。反応がないと、もうこれで降りちゃおうかなあという気持ちになるんです。お客様とのコミュニケーションがないと私、3分で引き下がる

ことになっているんです。ですから、先ほどからず～っとみなさま方の反応を見ております。

今日は8月31日ですが、早いところではもう昨日から学校へ行ったようございます。

[客席前列の子供へ]何年生でしょうかねえ。

小学3年ぐらいかな？ああ2年生ね。「学校は9月3日からですか？」「学校いつ？」「わかんない？」考えているようでございます。もう宿題もいよいよ押し迫っていることと思いますけどね。

注：客席前列は小学2年生男子

夏休み中は毎日学童クラブ(小学校)へ通っていて、「学校いつから？」が分からなかつたとのこと。

今日のお客様、ことによると銀行関係のお客様でしょうかね。「笑い渢り」をしている。

こういう時はわたし…夜、屋上にあがりましてお星さまとお話しをするんです。

今、星出さんが11月ぐらいまで日本の実験棟「きぼう」にいます。昨日も宇宙遊泳をしたようございます。ちょっと作業が思いの外うまいきませんでしたけど。

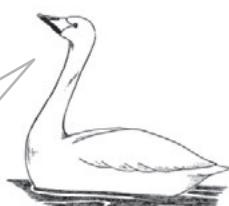
意外かもしれませんけども、私は9月生まれです。日にちは言いません。個人情報保護法がありますから。何を隠そう“おとめ座”でございます。そのおとめ座に向かってお話しをするんです。

「お星さまぁ～、今日サンシャイン60のイベントで私のポリシーが受け入れられませんでした。」すると、お星さまがいうんですねえ。

「早くこちらへいらっしゃい。こちらに来るとあなたはスターです。」

(…)

み～あ～げて
ごらん～～♪



歌っている場合じゃないですね。

そういうわけで宇宙や天気というのはわれわれの時代のこと。

落語にててくる庶民ではどうだったかといふと、暦はあったようななかったような、時間も腕時計をもっていませんねえ。江戸時代の末期ですからねえ。落語の世界では時間とか季節がアウトです。ほとんどいい加減です。あっ、失礼しました。「いい、加減」だった。そういう小噺がたくさんあります。

ひとつ小噺をだしますと、

げんさ～ん、
今日は寒いなあ

寒いなあ、今日は。
この分だと山は雪だんべえ

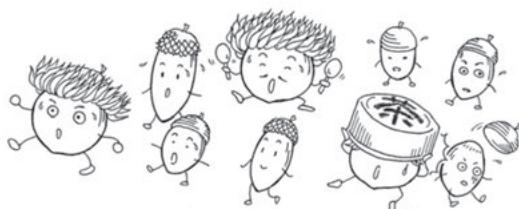
これを毎日やっていました。

「今日は寒いなあ」

「この分だと山は雪だんべえ、雪だんべえ」とやっておりましたところ、毎日そうはいきません。大変に暑い日がありました。

今日は暑いなあ

あ、今日は暑いなあ、
この分だと山は？
山は火事だんべえ



この程度の世界です。ですから今日はあまりかしこまつて聞かないように、よろしくお願ひしたいと思います。

-----*-----*

アメリカ人で大変有名なドナルド・キーンさんが76歳で日本に帰化したのも「源氏物語」が発端だったそうでございます。日本の文学はそれほど世界中からみても大変高度なようです。先ほど石井和子さんが和歌を披露しました。春・夏・

秋・冬、四季の季節感を詠う、日本人の誇りでないかと思うんですが。

せっかくだから私が知っているところ、今日全部しゃべろうと思ってんですけども、宇宙で歌を詠んだ人がいるんです。みなさん知っておりま
かね。

(日本の)女性ではじめて宇宙へ行った向井千秋さん。この方は、下の句を募集したんです。

上の句は、“**宙返り 何度もできる 無重力**”で募集しましたら、ちょうど小学校6年生の女の子でした。

“**宙返り何度もできる無重力**

水のまりつき できたらいいな”

という歌が入選いたしました。

それと男性で76歳の方でございます。

“**宙返り 何度もできる 無重力**

湯船でぐるり わが子の宇宙”

という歌も入選いたしました。

これに負けない、嘶家も和歌を詠むところを披露したいと思います。

“**宙返り 何度もできる 無重力**

ネズミも挑戦 これがほんとのチューがえり”

拍手に応えましてもうひとつ。

“**宙返り 何度もできる 無重力**

一度みてみたい カバの宙返り”

馬鹿な嘶でございました。

実はこの歌の前に向井千秋さんが詠んだ歌があるんです。意外とこの歌知られてないですが。向井千秋さんは群馬県出身、宇宙に行って地球をながめた時に小さい時を思い出したのでしょうか。その時の歌です。

“**山々を みおろしながら 思い出す**

幼き日々の 砂場の遊び”

今日は8月31日、暑いですが、特別、ぐっと逆回りして1月の中旬に皇居松の間で「歌会

はじめ」というのがあります。この調子で私はこの歌を披露したい。

やまやまを～～～～、
みおろし～ながら～～～～ああ、
思い出す～～～～うう、
砂場のあそびい～～～～いい
おわりました～～たあ。(会場拍手)



この程度でございます。それではあまり長々まくらを正在しているのもなんですから。

落語の世界の季節感、季節ごとの出し物があります。通の方、寄席の常連の方はよくわかるんですが、春というと必ずこの落語がでてきます。春、桜が咲きます、花見の時期でございます。知っている方いらっしゃいますか？(会場の声に)そのとおりでございます。「長屋の花見」でございます。

ちなみに私は古典落語をやらない新作一派です。私の師匠は三遊亭円右でございます。昔“エメロン石鹼の～”(頭なでて)とやっておりました。ですから、古典落語は聞いただけであまり内容知りませんが。

「長屋の花見」、春になると必ずこの出し物があります。みなさん、だいたい落語にててくるのは長屋です。それも金持ちは出できません。長屋連中は貧乏しております。ちなみにサンシャインは60階ですね。昔の長屋、横に長かったから長屋なんです。それで季節感があった。奥が行き止まりの五軒長屋ですと、こっから入ってこう行くと、最初の家でサンマを焼いているとか、となり行ったら夫婦喧嘩をしているとか、三軒目行ったら子供が喧嘩して泣いているとか、全部、長屋の生活感がわかったもんです。ところが今のおく時代、私が住んでいる市ヶ谷の“億ション”、あまり信用してませんねえ。値段じゃありませんよ。おく道路の奥の奥のマンションで“奥ション”です。

早い話、長屋が縦に上下関係になった。横のつながりがなくなったから絆がどんどん薄れていきますね。季節感もなくなるんです。隣でサンマを焼いているかなんて全然分かんない。そういう時代になったんです。

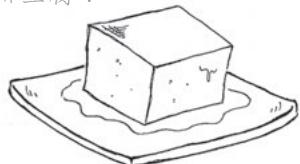
話は「長屋の花見」に。これは、みなさん貧乏ですから卵焼きは何だと思います?“たくあん”なんですねえ。それとかまぼこ、何でしょう?想像どおり“大根”です。お酒は“お茶け”です。番茶をもっていた。

「大家さん、近々いいことがありますね。」「なんだい?」、「これ普通なんていいますか?」、「茶柱っていいますね。」、「サカバシラがたっている」が「長屋の花見」のサゲ。

-----*-----*-----*-----*

次に夏です。夏は「ちりとてちん」という話があります。これドラマでやりましたけども、どういう話かをいうと、“豆腐が腐った”、昔「冷蔵庫」なんかありませんからね。腐った豆腐を酒のつまみで出したんですが、腐ってたんで(誰も)食べない。

酢豆腐?



でもひょっと思
いたって近くに
いる食通といわ
れる若旦那に
この酢豆腐をだ
したんですねえ。

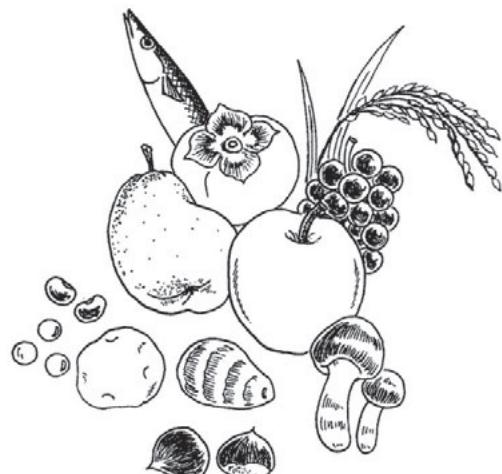
どういう食べ方かと聞いたら、やっぱりうぬ惚れですから食べ方を知っていると言つて、匂いが強いですから鼻をつまんで食べた後の一句が「うへん、酢豆腐は一口に限る」というサゲなんですね。

-----*-----*-----*-----*

続いて、秋はサンマ。「目黒のサンマ」という話がでてきます。これは、あるお殿様が狩りに出

掛けました。大手町の方から目黒のほうへ行つてきました(現在の中目黒のほうへ)。ちょうどお腹がすいたら、下町の庶民がサンマを焼いていてそれを食したらうまかった。

ある時にそれを思い出して、お殿様の屋敷で、「おいしかったあの魚を出してくれ」と言われた。
脂あぶらがお殿様の体にさわるんでないかってんで、ウナギあぶらでもないのに、サンマを蒸かして脂全部抜いちゃった。それをお殿様食べた。
「このサンマどこでとれた?」「日本橋の魚河岸です。」「やあ、サンマは目黒に限る」って。これが、秋の「目黒のサンマ」です。



-----*-----*-----*-----*

冬は、梶原さんも知つておられたが「芝浜」という落語。12月になると必ずだす人情諧ばなしでございます。

おおだな 大変な大店で営業していた魚屋の主人は大変お酒が好き。お酒が好きということは、だんだん生活がいい加減になってくるんですね。それで、大店から“こだな”、小さい行商をするようになった。ある朝、間違つて早起きたつもりがまだ夜が明けていない。その時に魚河岸で42両という金を拾うんですねえ。それをもらってまた酒を。酒が好きですから、長屋連中全部呼んで酒盛りをやるんです。ところがここでかみさん

がしっかりしてゐるんです。うちのかみさんとわけがちがうんですねえ。「昨日飲んだ酒、42両拾った金で飲んできた、あんたあれは夢だったわよ。」って。「え、飲んだのが本当で、42両拾ったのが夢だったのかあ、そうだ、これを機会にひとつ改心しよう。」改心、一生懸命お酒やめて仕事しますが、どうです。どんどん信用がついてきて3年目。おかみさんが、「実はあれ、お上に届けて今42両手元にある」と話をしたんです。「それじゃあ、一杯つけましょうか。」と言った時に、ご主人、「魚かつ」の旦那がですねえ、「いや、今一本つけると、夢に終わっちゃう」というサゲなんでございます。

-----*-----*-----*-----*-----*

いい時間になってまいりましたですねえ。

最後にまとめましょう。

二十四節氣、私、あんまり詳しく知らないんです。日本に季節感があってこういう言葉があるというのは、私はあらためて勉強しなくちゃいけないと思います。

それでは、なぞかけでございます。

「二十四節氣とかけまして、
今日ご来場のお客様の
人生ととります。」
「その心は、
節目を大事にいたします。」

ありがとうございました。(会場拍手)

(梶原氏、望月氏)どうもありがとうございました。

(右京氏)何をしゃべったか。

(梶原氏)いやいやいやあ。サンシャイン60のことよく分かりました。

「芝浜」ねえ、そんな季節も近づいてまいりました。

江戸の昔から庶民は季節を大事に生きて、
言葉を大事にしてきた、それがよく分かりました。
どうもありがとうございました。

もう一度大きな拍手をお送りください。



【日本の暦の歴史・暦をつくった男のはなし・前半】<国立天文台暦計算室とは>

(梶原氏)さて、みなさん、今日、季節の言葉、みなさま方にも考えていただこうということで、お手元にうちわ等々ございますが、この中にある「あなたが感じる季節のことば 教えてください」それ、ご投函ください。



応募はがきつきパンフレット
(手前:表面 下:裏面)



すごい商品、プレゼントもひょっとしたらあるかもわかりませんよ、というご案内もしております。ぜひ、お考えください。今日のことがヒントになれば一番ですね。その小冊子もお持ち帰りください。うちわも使ってぜひ持つていってください！

(望月氏)その前に、先ほどから二十四節気の話がでてきておりますが、その二十四節気が何月何日になるかということを。

(梶原氏)今、カレンダーがいっぱい出てきましたよ。

「2012年8月31日は二百十日」とのっていますよ。

今日は旧暦では何の日だと思いますか？あとで出でますが、思われぬ日なんです。

(望月氏)二十四節気が何月何日かになるかを決めているところがあるんですよ。国立天文台の暦計算室といふところです。

(梶原氏)これ意外でしょう？ 天文台の人が暦決めているんですよ、われわれのカレンダーを。そんな大それたことをしていいんでしょうか。

(望月氏)せひ、そこの方にお話をうかがいたい。ということで、暦計算室の室長、片山真人さんです。ちなみにこの後ろの暦、日本カレンダー暦文化振興協会からご提供いただきました。ありがとうございます。

-----*-----*

(梶原氏)ここから面白い話になりますよ。片山さん、暦、カレンダーを片山さんが決めてんですか？

(片山氏)そうですね。天体の動きを調べてそれによって暦を決めるところですね。

(梶原氏)「そうですね」って、すごいですね。われわれが使っているカレンダーを「私が決めているって」。

お言葉ですが、カレンダーは昔からあって、大げさに偉い人がいちいち計算機で計算しなくたって自然に暦なんてどうにでもなるんじゃないですか？



(片山氏)われわれに関係なく決まっている部分ももちろんあるんですけども、それ以外にも、例えば春分の日や秋分の日など二十四節気を太陽の動きがどうなっているかを調べて実際のその日を決める。それが春分の日、秋分の日というお休みになっているわけです。

(梶原氏)では、今年の秋分の日は?

(片山氏)9月22日です!

(梶原氏)普通、秋分の日は9月23日と決まっていますよね。これは片山さんとこの陰謀ですね(片山氏:笑い)

(望月氏)勝手に変えたんですか?

(梶原氏)日曜日と重なるから22日にずらした? 21日なら三連休なのに~何で22日にしちゃったんですか。

(片山氏)これは、実際に太陽がそのように動くということです。地球が動くと言ってもいいですけども。

(梶原氏)国立天文台の最高権威の片山さんに伺いますが、秋分の日が23日でないのは何年ぶりですか?

(片山氏)えへっと、三十数年ぶり。

(梶原氏)平成では初めてですか?

(片山氏)そうです。それより若いお子さんは絶対に23日のはずですね。

(梶原氏)このことに気が付いていない方が世の中にはけっこいると思いますけど。

(片山氏)基本的には動かないものだと思っている人の方が多いようです。

(梶原氏)今日来た人はひとつ大きなメリットですね。今年は実は三十数年ぶりに9月の22日が秋分の日で、これはとてもめずらしいことである。その根拠はどうも太陽にあると。

本当は毎日天文台に通って太陽みなくともわかっていたんじゃないですか?

(片山氏)そうですね。今までの長い蓄積がありますから、そこから出してくる予測ももちろん存在します。

(梶原氏)でも、やっぱり見ないといけない?

(片山氏)予測とは、その時点での一番最高を目指すものであって、それから先ずっと合っていると保証があるものではないですね。

(梶原氏)へえ~、片山さん、天文台での計算って、具体的に望遠鏡のぞいて、パソコンで計算しているんですか?



(片山氏)最近の天文学ですが、もっと精密なことをやって、より正確な情報を得ています。

単に望遠鏡をのぞいて、今日は太陽がここにあったと調べるだけでは、現代の科学では追いつかないです。もちろん、昔であれば、太陽を日々観測して影の長さを杓子で測っていくという観測もありました。最近では、レーダー観測、月だとレーザー観測など高度な観測をします。

(梶原氏)そんなことやらないとカレンダーできないのですか? 暦って。

(片山氏)そうです。もちろん基本的なものはあるんですけども、より精密なものを考えるとなると。

(梶原氏)暦って実は大事で、これがめちゃくちゃになったら、「来月の21日に連休前に会おう」とか「昼の1時に」と約束できないですよね。

表 西暦2000～2014年の春分日・秋分日

西暦年	春分日	秋分日
2000年	3月20日(月)	9月23日(土)
2001年	3月20日(火)	9月23日(日)
2002年	3月21日(木)	9月23日(月)
2003年	3月21日(金)	9月23日(火)
2004年	3月20日(土)	9月23日(木)
2005年	3月20日(日)	9月23日(金)
2006年	3月21日(火)	9月23日(土)
2007年	3月21日(水)	9月23日(日)
2008年	3月20日(木)	9月23日(火)
2009年	3月20日(金)	9月23日(水)
2010年	3月21日(日)	9月23日(木)
2011年	3月21日(月)	9月23日(金)
2012年	3月20日(火)	9月22日(土)
2013年	3月20日(水)	9月23日(月)
2014年	3月21日(金)	9月23日(火)

国立天文台ホームページ

「質問3-1)何年後かの春分の日・秋分の日はわかるの?」より抜粋

(休日は)世界中で大体決まっているんですねえ。
(片山氏)(日本のように)秋分の日が祝日な
のはけっこう珍しいです。キリスト教の国ですと、
秋分の日よりもイースターをむしろ祝う(宗教的
な問題もあって)。

(梶原氏)じゃあ、ぼくらも太陽見ることによって季
節を感じることはできるんですか?

(片山氏)季節によって太陽が高くなったり、低く
なったりするのを見ることで感じることができます。
もちろんそれ(太陽高度)によって暑くなったり寒く
なったりすることからも感じることができます。

(梶原氏)二十四節気でいよいよ立秋だとい
うのに熊谷の人たちは「何いってるんだ」という、
(まだまだ暑くて)「秋なんかきてない」って怒るん
ですけども、太陽の高さでは明らかに秋に向
かっているんですか?

(片山氏)そうです。一番高いのが夏至の日で、
そこからだんだん下がっていくという形になります。
ただ、地球の場合、水、海とか大気があって、
太陽の動きがすぐに気候に反映されるわけでは
ない。そういう意味での(季節感の)ズレはあると。

(梶原氏)なるほど、実感する気温と実際の太
陽の高さとは別なんですね。望月さんも気象の
専門家ですけども、影が一番短く見えるのは?
(望月氏)太陽が一番高いところにある夏至の
時は、影が一番短いです。ただ、6月末の夏
至の時が一番暑いわけではなくて、一番暑い
のは8月のあたま。空気があったまるのに少し
時間がかかるので、ズレちゃうんですよねえ。

冬至は12月末ですが一番寒いのはやはり
1月末から2月上旬です。

(梶原氏)みなさん、カレンダー見た時には片山
さんの顔を思い出してくださいね。暦のもとを作っ
ているのはこのおじさんなんだあとぜひ思い出し
てください。

-----*-----*

(梶原氏)片山さん、カレンダーは昔からあったん
ですよね。

(片山氏)日本に暦が伝わったのが7世紀はじめくらい、それからずっと暦は作られています。

(梶原氏)なるほど。日本の暦事情を知りたい
ですね。

(望月氏)では昔はどうやって暦を予測していた
のかというお話をこの後伺っていきます。

(梶原氏)みなさん、まわりにちょっとございます
ね。「天地明察」というすばらしい映画が公開さ
れるんです。ぼくら実は試写会を拝見しました。
実はこのあと映画をつくったご本人が登場になり
詳しく伺います。

日本独自の暦がかつてなかったんですかね、
片山さん。暦、輸入物だったんですかね。

(片山氏)しっかりしたものはなかったと思います
が、星を見たり、太陽・月を見たり、そういうもの
を使ってこの季節はどういうものだということは
理解していたと思います。

注:映画「天地明察」2012年9月15日公開
イベント会場ではパネル展示を実施

会話中の「日本独自の暦」は、「日本独
自の暦術(暦の計算方法)」のこと。

「天地明察」の主人公、安井算哲(後の
渋川春海)は授時暦による改暦を試みるも
日食予報に失敗、その原因が中国と日本の
里差(経度差)や近日点の移動にあることを
つきとめ、ついに日本独自の暦法である
大和暦(貞享暦)への改暦を成し遂げる。

<片山氏の後日談より>

「約800年間使い続けた結果、江戸時代
初期には2日の誤差が生じていたから改暦
した」とよく誤解されますが、それは冬至が2日
ほどずれたということであって、太陰暦が2日
ずれたということではありません。太陽暦は10
日ずれるまで改暦されないほどですが、太陰
暦は2日もずれたら月の満ち欠けすぐには
れます。

【日本の暦の歴史・暦をつくった男のはなし・後半】<江戸時代の改暦事業>

(梶原氏)一步を進めて大和暦ができるプロセスを！

(望月氏)それでは、お招きいたしましょう。

角川映画「天地明察」のプロデューサー
井上文雄さんです。
おかげさまで

そして、岡田芳朗さんは、
日本カレンダー暦文化振興協会の顧問、
「暦の会」の会長でもいらっしゃいます。

(梶原氏)岡田先生には以前にも“暦とはこんなに面白い”という話を色々うかがいました。

(巻末資料2 公開シンポジウム「季節が薫るひととき」参照)
あらためて、一番左から、岡田先生、天地明察のプロデューサー井上さん、片山さんです。



日本のカレンダー、暦界の三巨頭が、一同に会するという、なかなか珍しいことでございます。

まず、岡田先生、今日(8月31日)は旧暦でいうと何月何日ですか？

(岡田氏)今日は旧暦の7月の14日。旧のお盆です。昨日が迎え火を焚いて、明日がお盆、15日ですねえ。

(梶原氏)東京ではお盆は旧盆です。8月の十何日ぐらいに旧暦のお盆をやるといいますが、先生の今のお言葉だとずれています。

(岡田氏)8月は「月遅れのお盆」。旧暦は毎年、毎年ずれるんですねえ。今年などはわりと遅いお盆です。

(梶原氏)「月遅れのお盆」は便宜上1ヶ月遅れたあたりを適当にお盆と言っているんですね。

(岡田氏)正式には、

7月は「新暦(太陽暦)のお盆」
8月は「月遅れのお盆」
です。



旧暦のお盆は毎年ずれていくんです。本当の旧暦のお盆というのは、ふらふらふらふらっと動いているわけです。

(梶原氏)じゃあ、現在われわれが、旧暦によって生活しているとなると、お盆は毎年くるくる変わつて～。

(岡田氏)不便ですねえ。来年のお盆はだいたい11日早く、再来年は22日ぐらい早くやってきます。

(梶原氏)今使っている新暦は、いつ国が決め、取り入れたものですか？

(岡田氏)新暦(太陽暦)は1873年(明治6年)、今から140年前です。それまでは、日本は旧暦を使っております。

(梶原氏)太陽暦どう違いますか？

(岡田氏)旧暦は月の満ち欠けをもとにして12ヶ月、1年が354日です。本当の1年に比べて11日短いですから、3年目ぐらいにひとつくらいずれています。つまりお正月が早くやってくる。あんまり早くなると困るので、平均すると33ヶ月にいっぺんぐらいの割合で1ヶ月の閏月を入れます。

(梶原氏)1ヶ月多くなるのですか？

(岡田氏)その年は13ヶ月。ですから、月給を13回もらえますから、うれしいですねえ。払う方は大変ですね。

(梶原氏)いよいよ「天地明察」でございます。
井上プロデューサー、いい作品が出来上がり
ましたね。おめでとうございます。

(井上氏)はい、おかげさまで。「おくりびと」を撮った滝田監督が原作を読んで「ぜひ監督させてほしい」と希望されて、原作から映画をつくらせていただきました。

(梶原氏)実は日本の暦を作る物語なのです。V6の岡田君と宮崎あおいちゃんがすばらしい夫婦を演じています。物語の背景となる、「いかに暦をつくるのか」その大事なところを岡田先生が監修されました。

(岡田氏)暦のことだけですけどね。

(梶原氏)暦が中心じゃないですか。この映画！ものすごく重要なところですよね。

(岡田氏)そう言えばそうですねえ。

(井上氏)脚本のチェックをすべてしていただきました。

(梶原氏)「天地明察」、簡単に物語をご紹介いただけますか？

(井上氏)はい。囲碁打ちであった安井算哲という多種の技能をもった人です。800年間、中国からきていたずれた暦を使っていました。天文等々調べ上げたあげく、自ら計算もして、日本で初めての暦をつくったという話です。今みたいなコンピューターがない時期に、いろいろ挫折がありながらも最終的になしとげるという感動的なお話をございます。

原作を読んだ時に「本当にこんな日本人がいたのか」と誇らしく思いました。
「ぜひ物語をみなさん見ていいだけたらなぁ」と思ってつくりました。

(梶原氏)まさに命がけで日本独自の暦をお作りになったのが算哲さんです。今に例えると、片山さんみたいなひとですねえ。

(井上氏)そうです。安井算哲は、初代天文方になっています。

おかだ
(梶原氏)今が片山さん。片山さん⇨岡田じゅんいちさん。世が世なら片山さんがV6ですよ。

(片山氏:笑い)。

(片山氏)天文方は本当に偉い人で、今だと天文台長クラスの方です。

昔は暦をつくるのが主でこういう

人たちが生まれて。今の天

文学になると(暦を)作るだけ

ではなくて、もっと広いものが

あってその中の一部という感じですね。

(梶原氏)片山さん、映画を僕らみたいな素人とは違った思いでご覧になったと思いますが、どういう印象でした？

(片山氏)やはり何度も何度も失敗をしながら、それでもめげずに暦(れき)の改暦に取り組んでいった、そういう姿は非常に印象的に残りました。

(梶原氏)井上さん、映画の中でV6の岡田君がすばらしい演技みせますが、まわりも、あおいさんの妻の献身ぶりには何度も泣いたか。

(井上氏)そうですよねえ。ああいう本当にかわいいらしい人だし、実はすごい俳優さんたちがいる中で唯一の女性、紅一点なんですよ。

(梶原氏)まわりの男優さん、すごいの。松本幸四郎さん、中井喜一さん、

関ジャニの横山裕さん、それから今話題の市川猿之助さんもいい役をされていますね。

(井上氏)ちょっとお怪我されましたけども市川染五郎さんも。

(梶原氏)超・豪華ですねえ。

(井上氏)滝田監督が「おくりびと」を撮って、世界的な監督になられての最初の作品ですので、声をかけたらみなさんふたつ返事で参加してくださいました。

(梶原氏)脚本すべてのチェックをなさった暦の専門家、日本ナンバーワンの岡田先生は、こ



にっぽん
(梶原氏)まさに命がけで日本独自の暦をお作りになったのが算哲さんです。今に例えると、片山さんみたいなひとですねえ。

(井上氏)そうです。安井算哲は、初代天文方になっています。

の映画をどういうにご覧になって。そして、どこを
どういうふうに、ここだけは曲げちゃいけないって
思ったのか、そのあたりをちょっとご紹介願いま
すか？

(岡田氏)この映画の主役は岡田さんで、私は
岡田芳朗さん。

(梶原氏)岡田さんつながりです。

(岡田氏)でもこれは岡田違い。映画の一番最
後、大変盛り上がったんですねえ。

(梶原氏)どこまで申し上げていいか。井上さん
の立場もありますねえ。



(井上氏)金環食の勝負にでるんです。

(梶原氏)「金環食！」ついこの前、僕らみま
したよね。みなさんで見た方は？天気悪くて見え
ないって、でも結局見えましたよねえ。

(井上氏)東京 23 区あたりですと 173 年ぶりで
した。

(岡田氏)映画のクライマックスをあまり言っちゃ
うと悪いけど、どうせねえ、あと半月たてばロード
ショー始まります。

(井上氏)9 月 15 日からです。劇場でよろしくお
願いします。

(岡田氏)とにかくねえ。私は 2 回も試写会見せ
てもらった。2 回ともねえ、このシーンを見て涙が
でてくるんですねえ。脚本からずっと見ていて
るので話はちゃんと知っているわけです。知ってい
ながらねえこのシーンみて感激しました。

当たり障りのない範囲で申し上げますと、当
時使っていた宣明暦という暦法に基づいてお
上が出している暦があるんですね。そのお上の

暦にはない金環食が見える。これは安井算哲
しづかわはるみのちの渋川春海が自分の新しく計算した暦で
は、明日の正午に金環食が見える。

(梶原氏)ほう、お国と彼が言っていることが違う。
これってはむかうことで大変なことです。

(岡田氏)ですから、大勢の方、特に朝廷のお
公家さんなんかがね。「もしお前、言ってることが
間違ったらどうする？腹を切るんだ」というんで
すねえ。大変な覚悟です。いよいよ当日になっ
て大勢の方が集まって、九つのお昼の時の鐘
がなります。

(梶原氏)算哲が予告したその時を迎えた。実
際に算哲のいうおりになったのか。お国の方
が実は正しいのか。この勝負ですね。

(岡田氏)そうです。ゴーン、ゴーンとなって最後
のところは…。

(梶原氏)だんだん危なくなってきたね。

(岡田氏)ゴーンとなり終ってもまだお天道様が
欠けない。それでいよいよ彼は腹を切る段になり
まして、刃を立てたか立てないかっていうとたん
に太陽が～(井上氏:その辺で)

(岡田氏)あとは映画の方で。でもそれは実に
感激のシーンで何度も涙がでてくる。それだけの
覚悟で新しい暦を作った。何十年という努
力の結果です。日本の科学者として実にすば
らしい。これが安井算哲のちの渋川春海という
学者。囲碁の先生であり、天文学の先生であ
り、暦の先生であり、しかもこの方、神道の免許
皆伝です。スーパーマン。冲方丁さん(原作者)
は小説の中で上手に書いていますし、それをまた
映画の方で、さらに盛り上がりをつけていただ
いた。いいなあと思って。これだいぶ、角川さん
と松竹さんからいただきなきゃない。これはあと
でご相談(笑い)。

(梶原氏)いやいや、今、暦の科学的側面か
ら片山さんや岡田さんにお話を伺いましたけど、

実はぼくらみたいな素人は、国の大事業にチャレンジする算哲と彼を支える妻“えん”的夫婦の物語としてみました。人間関係のすばらしさ。こんなに愛し合う夫婦が江戸の昔にいたんだなあと。あれは泣けますねえ。

(井上氏)そうです。ひとつキーワードがあるんですけど…、それは(映画を)見ていただければ。(井上氏)宮崎あおいさん扮する“えん”という奥さんが「私より先に死なないでください。」という言葉(せりふ)で、いち(切腹)覚悟の勝負にでる夫・算哲を見送る。“えん”的宮崎さんのお芝居含めてですね、そこはもう感動に値すると思います。

-----*-----*

(梶原氏)あたらめて、世界中の人々は暦がないと、人間の基準がないということですよね。農業で種まいたらどうすんだ、いつ刈るんだ、そういう話からはじまって、約束どうするとか生活の

あらゆることに暦があることにあらためて気づかされました。だからこそ彼は命をはって暦をつくったということですね。

「天地明察」の「天地」は空と地球?

(井上氏)そうですね、それをつかむということですね。

(梶原氏)「明察」とは?

(井上氏)大当たり! 大正解! ですね。

(梶原氏)それは岡田先生がおっしゃっていた最後の大場面ですね。はずかはずさないか、明察か明察でないか。この「明察」という言葉がどういう状況で、誰の口からどう語られるかが映画のみどころです。こうご期待ですね。

(井上氏)ありがとうございます。

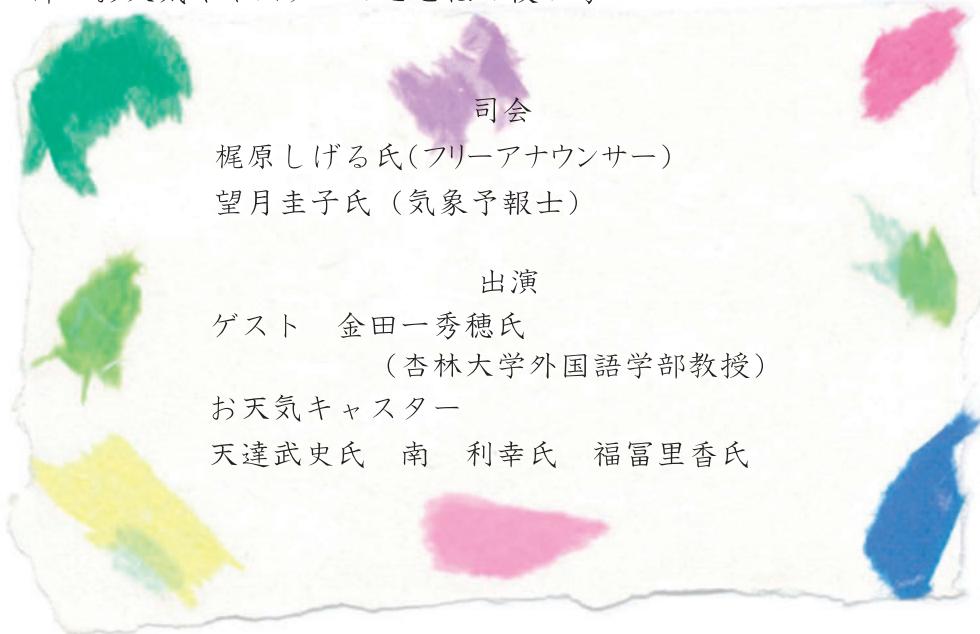
(梶原氏)本当に、われわれが季節の新しい言葉を考えようじゃないかという上で、すばらしいヒントを与えてくれる映画ですね。

注:「金環日食」 2012年5月21日朝、全国で部分日食九州地方南部、四国地方南部、近畿地方南部、中部地方南部、関東地方など広範囲で金環日食を見ることができました。



図: 国立天文台 天文情報センター ◆ 東京での食の最大は7時34分30秒

◎第二部 お天気キャスターのことばの使い方



【お天気キャスターのことばの使い方 1】<いつから熱帯?>

(望月氏)ここからは、「第二部 お天気キャスターのことばの使い方」を進めていきます。

(梶原氏)お天気キャスターといえば、テレビの華、ラジオの華ですねえ。

(望月氏)「季節のことば」を天気予報の解説ではよく使っておりますが、その道のプロ3人をお招きしたいと思います。

(望月氏)それでは、「NHKおはよう日本」に出演中の南 利幸さん。みなさん、拍手でお迎えください。(南氏登場)

(梶原氏)南さん、あの顔知ってる、知ってる。

(望月氏)二人目はこの方、「トクダネ」でおなじみの天達さんです。

(梶原氏)小倉さんに「あまたつ～」と言われている天達さんですね。小倉さんが大きな声で「天達～」という気持ちが分かります。「天達～」

(天達氏登場)

(望月氏)もうひとかた、ラジオや「tenki.jp」(天気ドットJP)の日直予報士でも活躍中の福富里

香さんです。(福富氏登場)そして、スペシャルゲストをお招きします。日本語学者の金田一秀穂先生です。(金田一氏登場)

(梶原氏)よこそ、金田一先生。

お忙しいところありがとうございます。

(金田一氏)よろしくお願ひします。

(梶原氏)という超豪華メンバーでお送りするわけでございます。



(梶原氏)さて、気象ということで、天気予報にもさまざまな言葉がございますが、金田一先生は天気予報をお聞きになってこの言葉気になるなあとか。

(金田一氏:ありますねえ。)

(梶原氏)ありますか…。

じゃあ、先生、そこからいきましょう!

(金田一氏)最近は「猛暑日」っていうの気に入らない。

(梶原氏)今まさにこの時期連発されている言葉でしょう。

(金田一氏)あの、

「ほらごらん 猛暑日なんかつくるから」
なんて俳句があるんですよ(笑)。



ようするに猛暑日というから暑い。「今日は暑いね」と言えばすむでしょう?「猛暑日」と言わると暑くないといけない気がするでしょう?うんざりするんですよ。(そうですね)。「真夏日」、「熱帯夜」と言わなくていい。「寝苦しかったね」とか言えばいいじゃない。

それから「ゲリラ豪雨」、あれ、気に入らない!「夕立」と言えばいいでしょう。夕立と何が違うんだ!

(梶原氏)金田一先生のお怒りのことよく分かりました。南さん、答えていただきましょう。まず「熱帯夜」から。



(南氏)確かにむかつく言葉かも知れないです。本当に暑い日が多くなっています。そして、今、夏だけは熱帯なんですよ。例えば平均気温で比べると、西日本は8月の平均気温が28℃ぐらいです。28℃というと、シンガポールやジャカルタとあまり変わらないです。8月の1ヶ月間は、短い期間ですけども一時的に熱帯に入

るんです。そういう意味でも「ここは熱帯ですよ」とみなさん分かってもらう。

(金田一氏)分かりたくない、そんなこと。

(梶原氏)ぼくら、熱帯に生まれた覚えないですよねえ。

(金田一氏)温帯ですよね。

(梶原氏)いいところに生まれているのに、何で熱帯なんだ!

(南氏)でも熱帯だから、「熱帯なりの格好」は必要だし、「熱帯なりの注意」は必要ですので「熱帯夜」と。

(金田一氏)「熱帯の注意」っていったい何でしょう。(笑・笑・笑)

(南氏)「熱帯の注意」には、最近、熱中症などが多くなっていますから、「注意しましょうね」という意味が含まれていると僕は思いながらしゃべっていますけども。



(梶原氏)きつい言葉にした方が警鐘を打ちならすためにはいいのですね。

(南氏)きつい言葉かも知れませんけども、それに置き換えてしゃべっていく方が伝わりやすいのかと。

(梶原氏)伝わることは伝わるんです。ただ不愉快になる!(笑・笑)

(南氏)アハハ。やな感じ。

(金田一氏)「とっても暑いよ」とか、「寝苦しいよ」とか、そういうふうに言ってほしいなあ。昔、「不快指数」ってあったじゃない。あれ、最近言わな

いですよねえ。どうしたんですか？不快指数なくなっちゃたんですか？



(南氏)言葉自体はあるんですけど。

(梶原氏)毎日、不快になりすぎちゃったんですかね(笑)。予報から削除？これ、決まりがあるんですか？

天達さん、予報で使うとまずいからやめましょうとか、時代によって使う、使わない言葉があるんですか？

「不快指数」はアウトですか？

(天達氏)全然そんなことないですよ。

(梶原氏)放送禁止用語とか？

(天達氏)いや、全然、アハハ(笑)。「熱帯夜」は「猛暑日」と言うようになってから使わなくともよくなっちゃたんですよね。きっと。

(梶原氏)「不快指数」を使わなくてもよくなっちゃった。言わなくても分かっていると金田一先生がおしゃっていましたけども(笑)

(望月氏)はい、毎日不快だよ。

(金田一氏)「洗濯指数」は割と役に立つ氣がするんですよ。でも「不快指数」は言われてもちっとも役に立たない。どうしたらいいんだよ！

「猛暑日」もそうだし。

それから「日本一暑かった」なんてね、いばるんですよ、熊谷の人が。(笑)

それで、今日は一番じゃなくて二番だったって残念がるんですよ(笑)。

残念がるなよ、お前！(笑)

(梶原氏)本当にね、多治見と張り合うなよってねえ。あれはねえ。

(金田一氏)何がうれしいんだって。

(梶原氏)福富さん、ゲリラ豪雨はどうですか？そんなきれいな人が「ゲリラ豪雨」というのはなんない感じがするんですよ。

(福富氏)「ゲリラ豪雨」が最近使われているんですけども、逆に使われなくなった言葉として「台湾坊主」があります。(今は使っちゃいけないですか？)差別用語といいますか。そういうのは使わないようにしています。

(梶原氏)何で「台湾坊主」ですか？

(南氏)台湾のあたりで低気圧が発生すると等圧線がこう盛り上がるんです(天気図上でなぞるふり)。こんなふうに盛り上がる(形が)がこんな感じに(ご自身の頭に手)見えてるので台湾坊主というようになった。それがそのまま日本にやってくると発達して大きく荒れることがあったので、注意しましょうねという意味も含めて「台湾坊主」と。

(望月氏)坊主だとあまり荒れた感じもなく、「ああ南さん」という感じにもなる。

(金田一氏)やっぱり注意することが大切なんですか？

(南氏)天気予報の中では注意喚起する言葉が多いですね。ゲリラ豪雨もそうです。

(福富氏)
今日は暑くて
猛暑になりそうなので
注意してください。



ゲリラ的に雨が降る可能性がある。
どこで(雨雲が)発生するか分かりませんが、すごい雨が降るので気付けてくださいね。という意味ですよね。

(金田一氏)なんかその、最近の天気予報って良くないことばっかり言われるような気がするんですよ。



(梶原氏)ネガティブですね。

(金田一氏)ネガティブなんです。年中、「注意しろ」「こわいぞ」って、なんたらかんたらって、「もっと気持ちいいぞ」とかね、「夏らしくていいんだぞ」「海水浴行ったら気持ちいいぞ」とか、そういうこと言ってほしい。

(福富氏)天気の記録で、心地いいことがあまりないんですよね。気温が高くてもあれだし、寒くともあれだし。

(梶原氏)何か前向きな言葉ないんですか？ 聞けばみんな一瞬幸せになるような言葉で。

(福富氏)南さん、以前言ってらしたじゃないですか。ほっこりする言葉。

もうしょ こくしょ
「猛暑、酷暑、どっこいしょ」(笑)

NHKで怒られちゃう。よけい暑くなっちゃう？

(南氏)天気予報の中でも何となく印象に残って、でもほっこりしてもらうような言葉を入れつつあるんです。

注意ばかり言われていると、「なんだあ、今日も注意かよ～」と思って、聞いている人は慣れていたりする。本当に危ない時に注意をおこたつたりする。(オオカミ少年になりつつありますね)それがいけないんです。

(梶原氏)あの津波の時だって、津波警報ってそれまでいっぱい出ていて「たいしたことないじゃないか」と思っちゃったんで大変なことになるわけでしょう。

(金田一氏)年がら年中、「こわいぞ、こわいぞ、こわいぞ」って言われても右から左へ行っちゃうんですよねえ。

(梶原氏)金田一先生、ぼくが気になるのは、「これまでに体験したことのない」という言葉、最近でしょう？

あれはどうして使うんですか？

(南氏)やっぱりあのへ、確かにそういう雨とかそういう高温とかが非常に出やすくなっているといえば出やすくなっている、一応、台風がきたたり大雨があったりしてテレビ局がインタビューに行ったりすると、そのおじいちゃんたちが「これまで体験したことのないような雨が降りました。生まれて初めての雨ですよ」と言うんですよね。

「注意」、「注意」という言葉が多すぎたので、みなさんあまり注意してくれなくなったり。それで他の言葉を考えないといけないという理由もあると思うんですよね。(イタチごっこです)だから今、最大級の言葉を使っているんですけど、この先何かあるかなあ。

(天達氏)この先、そうですねえ。今まで「かつてない雨」と言っていましたからねえ。

(梶原氏)「予想をはるかに超えた」とかね、「とんでもない」とか。

(福富氏)「百年に一度あるかないか」とかですね。

(梶原氏)ああ、そうですねえ。

(天達氏)「よくわからない大雨」「これ雨なの！」とかね。

(梶原氏)じゃあ、天達さんそういう感じで、ここに天気図を用意しましたんでねえ。金田一先生を納得させる、気持ちのいい天気予報を実演していただけますか？

-----*-----*-----*-----*-----*

【お天気キャスターのことばの使い方 2】<天気予報対決>

[2012年5月19日(土)9時の解説]

(梶原氏)5月19日の天気予報です。

天達さん、あまたつ～。

(天達氏)はへい。今日のお天気をお伝えします。今日じゃないんですけどね。これ、5月19日の天気図ですが、これちょっと白黒で見えにくいと思うんですが。ポイントはこれです。



[Hを青く書く] “H”は高気圧です。高気圧が日本のまわりを覆っているのでもいい天気ですよ。ここから全部覆っていますから。問題ないように見えるんですけども、1つ気を付けていただきたいのが、この高気圧はけっこう早いです。移動速度が速くて実はこの西側にもう雨を降らせる前線が近づいてきているんですね。そのうち高気圧が移動してこう雨が降る天気なんです。「移動性高気圧」というんです。ええ、これをみた時にね、どれくらい移動するのか、絵をかいてみたいと思います。「みなさんオリンピック見ていましたか?」「この人分かりますか?」マラソン高気圧で、これはウサイン・ボルトです(笑)。「ボルト高気圧、時速40km」です。



40kmということは、このあたりの高気圧次の日にはいません。西の方から、ここにある前線がやってくるわけです。この高気圧がでて西側に前線がちらっと見えている場合はもう次の日は

天気下り坂です。そういうことがわかってくるんですね。「高気圧だからってこのまま安心して晴れるんじゃない」、そう教えてくれる高気圧あります。以上でございます。

-----*-----*-----*-----*



(梶原氏)天達さんありがとうございました。では、ただいまの結果を金田一先生から発表していただきます。良かったのか悪かったのか。(金田一氏)とても分かりやすくて。ただ、やっぱり…、やっぱりどうしてもね「次にくる低気圧に気を付けてください。」で終わっちゃうんですよ。だから「今ある高気圧をもうちょっと楽しめ」とかね、「今のうちに外行くなり、洗濯するなり、外でご飯たべるなりした方がいいよ」ぐらいのことをしておいてくれた方がうれしいかな～という気がね(笑)。何かねえ、心配するのがお好きなんですよ日本人って。(ああ本当だ!)それが、アリバイづくりになるんですよね。どうもね。「天気予報がこういってあったんだから俺は責任ないぞ」みたいなところあるでしょ。もちろん、それでいいんでしょうけど。しょうがないんですけどね。



(梶原氏)金田一先生のお話、おっしゃるとおりですね。危機・危険をあおって「大変だぞ! 大変だぞ! 大変だぞ!」って、「大変が来なかったらそれはそれで良かったろう」って。

「大変って言わなかったから後で責任とらされるんじゃないか」って官僚根性丸出し、役人根性じゃねえのかっていう(笑)、ねえ。

(金田一氏)分かりやすくてよかったです。

-----*-----*-----*-----*-----*

(望月氏)同じ日の同じ時間の天気図を、今度は南さんに。

(南氏)これ、今ちょっとハードルが上がりましたけど。

(望月氏)民放とNHKの違いを。

(梶原氏)金田一先生のご希望を入れて。

-----*-----*-----*-----*-----*

(南氏)さあ、これは5月19日です。



南西諸島は梅雨に入っています。南西諸島、今のところ梅雨前線ありませんけども大陸に梅雨前線がありますから、この梅雨前線がこのあと東に進んできますので、南西諸島は今日午後になると雨が降ってくるところがでてくる見込みです。一方、本州付近、移動性高気圧に覆われて今日は晴れの天気。今日は風も弱くて晴れの穏やかな天気がつづく見込みです。

「5月」、「風薫る五月」です。「風薫る五月」
「くんぶう薰風」と書きますね(板書の文字も)、「風薫る
五月」、「風薫る五月」、なんで風が薫るかとを
ちょっと考えてみたんですね。5月の早い時期は
ツツジが咲いたり、サツキが咲いたり、その香り
が届いてきますし、それから5月も下旬になって
きますとシイの花が咲いたり、栗の花が咲いたり、
クスノキの花が咲いたり、そういう木々の香りが届
いてきます。今日はそういう木々の香りが届

いてくる一日になりそうですから、その香りを楽し
みましょう。そこで一句つくりました。

「シイが咲き 五月の風は かぐわしい」

(梶原氏)なるほどシイにかけた。

(南氏)あまり、うけなかったですね。

(金田一氏)あはははは、きれい。ありがとうございます。

(梶原氏)早速、金田一先生に講評を。

(金田一氏)まあねえ、後ですからねえ。(天達さんかわいそうにねえ。)天達さんお気の毒です。
あのへ分かりやすくていいですね。

ただ、「えくにしげる」さんという人が前に言って
たことがあって「天気予報は一番最初に天気
図の概況をやる。それから、それぞれの地方の
予報、天気をやるのは順番が逆なんじゃないか」
と。「あれはバカバカしいんじゃないかなって、天
気図なんか誰も見ちゃあいないっていうんですよ。
高気圧、低気圧なんか知らないたっていい、
それよりも明日の天気と温度がわかりやあいい。
まず、それをやってほしい。その後に“それどうして
かなあ”っていう人のために詳しくこれをやったら
いいんじゃないか」と。僕は確かにあんまり知らない
でいいわけなんですよ。低気圧がこようが何が
こようが、どうでもいいわけ。(なるほどねえ)。

(南氏)そう言われると、解説のしようがない。
(天達氏:そそそそそそそそそそ…)



(南氏)一応、天気予報の解説員という立場
でお話ししていると、やっぱり根拠が。「明日の
天気が晴れですよ、雨ですよ」という結論に向
けていかにこう流していくっていのかですね。

「これがこうだから、こうなので、こうなりますよ。」

いわゆる三段論法的な感じでしゃべっていくというのが。

(梶原氏)天気予報ってみんな必ずそうなっていますよね。(そうですよね)

-----*-----*

(金田一氏)一度、ひとつぐらいはね。逆に結論をまず出して、どうしてかというのを後でやってくれるような天気予報があつてもいいなあという気がするんですよねえ。

(天達氏)ラジオだと声が、声だけがたよりになりますから。

(福富氏)そうです。テレビは時間がなくなると「今日の天気はこちらです」と笑顔で済みますが、ラジオは言葉で伝えなくてはいけないので、ちょっとハードルが高いです。これからラジオはどうなるかということで(実演します)。

(梶原氏)天気図を見てませんからね。

(福富氏)はい。ラジオはわたしの顔も見られないですから、ちょっと後ろ向きになりまして。みなさん天気図を想像していただいて。目をつぶっていただきたいと思います。



では、「たのもう！」あっ、失礼しました。

では、まいります。

北海道から九州にかけて穏やかに晴れて絶好的の行楽日和、洗濯日和になるでしょう。これは本州付近が高気圧に広く覆われているからなんですね。最高気温、北海道は15度前後、東北や北陸20度から30度、関東から九州は25度前後の見込みです。空気が乾いてすがすがしい陽気、何をやるにも快適にすごせそうです。風薫る五月、満喫できそうですね。

一方南の海上には梅雨前線が停滞しています。沖縄や奄美など南西諸島は梅雨前線の影響で午後は雨が降るでしょう。那覇の最高気温26度、シメジメしそうです。風通しのよい服装でお過ごしください。お天気は以上です。



-----*-----*

(梶原氏)うわぁ！すごい。

(望月氏)さすがです。

(天達氏)すごい。

(福富氏)気を付けていることは、結局、図が見えないので地点をすべて言うんですよ。北海道は、北陸は、(東北は)。西日本、東日本、南西諸島という言い方は極力さけています。

(金田一氏)いやぁ～すばらしいですよね。

今はもう圧倒的によかったです。これからは、天気予報はラジオで聞く時代ですね。

(福富氏)
ラジオよろしく
お願ひします。



(梶原氏)本当？一応みなさんにも、「福富さんが一番良かった、ラジオのが一番良かったという人、手を挙げてください！」(会場の挙手多数に)あらららら…。



(福富氏)ヨイショでもうれしいです。

ありがとうございました。

(天達氏)もうやりたくないです。

(望月氏)そんなことおっしゃらずに。

(福富氏)でも、かくもそう図がなくとも絵が見えるってことあるんですねえ、先生。

(金田一氏)本当にこうわかりますよね、いろんなことがねえ。

(梶原氏) 札幌の様子と沖縄の様子がこうクリアに感じられて。短い時間で。

(金田一氏)難しいのに、いいなあ。

(梶原氏)いやな感じばかりじゃないでしょ
ね。

(金田一氏)気持ちいいですよねえ。

(梶原氏)気持ちいいですねえ。

(金田一氏) そうつかあ、いい日なんだ。 (出演者・笑)

(福富氏)何をするにも快適な日です。

(天達氏)「何をするにもいい」なんだあ(笑)。

(南氏)確かにいいですよねえ。



【お天気キャスターのことばの使い方 3】<意味不明の用語>

(梶原氏)一つのものが見方、とらえ方によってちがうんですねえ。

(南氏)どこに視点を置くかですよね。「注意してください」が先にたつと「南西諸島雨が降りますよ」をちょっと言わなくちゃいけないし。天気予報自体は気象庁から発表されるので、あとは各個人がどこに視点をおいてどうしゃべるか。

福富さんはへさわやかな感じが…。

やっぱり性格がいいのかなあ。(出演者・笑)。



(福富氏)カラッとしてるから~。

(金田一氏)面白い！

(梶原氏)あのへ、金田一先生からごらんになって、季節の移ろいや何やらこうさまざま、こんな季節がやってきたなあと感じる言葉でご推奨のお言葉をちょっと教えていただけますか。「これはみなさんいい言葉ですよ～」、

「これ天気予報に使えたらしいなあ」という言葉
ありませんか？



(金田一氏)日本人は「うつろい」を大切にすることですよ。それで「もののあわれ」をわりと大切にする。そういう時に「うつろい」は変化だと単純に思うわけですが実は単純な変化じゃない。「うつろい」は何かが盛んになることではなくて、盛んだったものが衰えていくことを「うつろい」という。だから、「心がうつろった」と言ったら今まで大好きだった人がもう心がここにない。「夏がうつろう」といったら夏になることではなくて夏が終わることなんですよ。だから、わりとその季節の言葉でもいいものは「夏がだんだん暑くなります」という言葉もちろん素敵ですけども、「夏が去っていきます」とか「夏の終わりです」という方が

（四七）

(天達氏)まさに今のこの時期です。

(金田一氏)「秋近い」というのはもちろんいいけどもそれよりも「夏が終わる」とみる方が、何か日本人の心にすっと落ちるような。「秋近い」より「夏の終わり」の方が素敵な感じがしません?

(梶原氏)いや、とてもいとおしい。こんな嫌な夏かも知れないけれどもその夏が去ってしまうへとしみじみしますね。

(なるほど～)(後ろ姿をこう～)(ああ～)

(福富氏)なんだか歌になりそうです。
夏の終わりのハーモニーみたいな。

(金田一氏)「8月の夏の、なぎさにもう人がいなくなつて、あれだけにぎやかだったのが“なへんか”寂しくなつていった。この8月の終わりを楽しみたい」みたいな。

それがわりといいような日本的な感じがする。

(梶原氏)残暑がまだまだ厳しく、(金田一氏:そそそそ)それを先生、今ね「うつろいの時を迎える」というふうに言った方がよっぽどいいと。むしろこの暑さにジタバタしているさまはもうすぐ終わっちゃうと思うえば許してあげられるようだ。

(金田一氏:そそそそ)

(なるほど、なるほど)

(望月氏)たんたんとやって、でも違う言葉を色々選んでいます。こういう言葉を使わないようにしようとか。

-----*-----*-----*-----*-----*

(梶原氏)「バケツをひっくりかえしたような」と言うけど、あまり最近バケツないよなって(笑)。

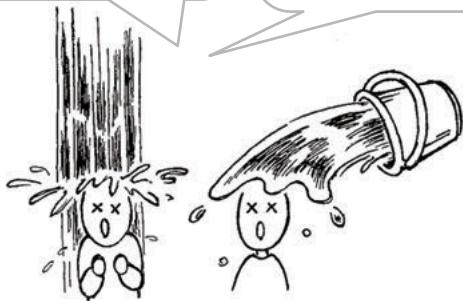
(福富氏)一応、1時間30mm以上(の雨)だと「バケツをひっくりかえしたような雨」と言います。基準はありますね。

(梶原氏)えっ、基準ですか?

(天達氏)
「50mm以上は」～滝になっちゃいますよねえ。

(福富氏)
「滝のような雨」とか。

(天達氏)
どっちがすごいんですか?
(梶原氏)
バケツと滝じゃ、滝?



(南氏)教科書的な一覧表で、この時にはこういう表現を使いましょうとあるので、それをもとにしゃべってるんですけども、実情と違うとか、感覚と違うこともあったりする。

(福富氏)だからみなさん色々だしていますね。

「傘が役に立たない」

「ワイパーがきかないような雨」

とか、ちょっと身近にあるところで想像できるような感じで。

(南氏)例えば、1時間に「10mmから20mm」の雨を「やや強い」と言うんですけども。(梶原氏:そういう基準があるんですね)。そういう基準があるんですよ。「20mmから30mm」が「強い雨」とか基準がある。だた「やや強い雨」でも、けっこう強いですねえ。

(天達氏)どうも天気予報をやっていると先取りしたくなるんです。常に季節の先を一步していくみたいな。

(梶原氏)しかも割と悪い先を見ようという(笑)

(南氏)「まだまだ暑さ続きますよ」とか。(熱中症が)。「秋はまだ来ないですよ」とか。

(梶原氏)予報界でも多少、伝える言葉も吟味してもうちょっと前向きに変えようじゃないかという議論は盛り上がってないんですか?

(天達氏)あまり盛り上がってないですねえ。

(梶原氏)「やや強い」だと割とたいしたことなさそう。

(南氏)でもけっこう強かったりするし。

そうすると、1時間に5mm前後の雨は何もつけないわけです。

(梶原氏)でも5mm前後ってけっこう強かったですね。傘さないと絶対ダメですねえ。

-----*-----*

(南氏)気象の本に書いてある「言葉の基準」と自分が受ける感覚とズレていることがあるので、そこをどう補うかが難しかったりするんですねえ。

(金田一氏)あの、「ところによって」とかね、それから「ときどき」とかね。あそらへん、ちょっとごまかされてるような(笑)気に入らない。昨日聞いていたら、「あっちこっちで雨が降るでしょう」と言われて、ちょっと面白いと思いました。(笑)「あっちこっちで降る」のがすごいと思いながら。

(南氏)局地的に。

(天達氏)なるべく、ぼくらもその人の頭の上に降るかどうかっていうことを伝えたいんですけどねえ。やはり、こう全国の天気とかお伝えする中で、雨が降る場所が点々としてしまう。時間が2分しかないとなると、どうしても大ざっぱにはなってしまう。そこで、ここが一番危ない、ここが一番降りやすいとか(伝えたいですが)、難しいどこありますねえ。

(福富氏)晴れていても10km先の隣町ではザーッと、ふるような降り方をいましますのでねえ。

(南氏)東京都で「ところにより」といったら「東京都の半分は降りません」ということです。

(金田一氏)「ところにより晴れ」と言えばいいんだ。

(南氏)そちらの方がいいかも知れないですねえ。場所もあまり特定できないので「ところにより」を使わざるをえない。まだ、科学としてそこまで進

歩していない。「その時間帯に板橋区で絶対雨が降ります」と言えたら言いたい。

(福富氏)なになに区のなになに町とか、本当にタイムリーに言いたいです。

(天達氏)2時間、3時間、4時間先それぐらいでしたら言えますけどね。テレビやラジオの天気予報で朝や夕方に(天気概況を)大づかみしておいて、あとは携帯電話などで「雨雲レーダー」で雨雲がどう動いていくかを見ていけば、みなさんもベースにした天気予報プラス、あと30分後にどこで降るかはばっちり分かってくると。



(南氏)最終的には自己責任でお願いしますね。ぼくらはこれだけ伝えるけどもあとはみなさん判断は任せましたよっていうスタンスかなあ。

-----*-----*

(梶原氏)金田一先生、他にも納得いかない表現はありますか？

(金田一氏)難しいのがあるんですよ。「未明は何時頃を指すか」と聞かれるんですよね。

(南氏)「未明」は夜中の0時から明け方3時です。

(金田一氏)真夜中ですね、いわゆる。

(南氏)そうです。気象庁が3時間ごとに言葉を決めているんです。

(梶原氏)「未明」は明けるだから、太陽が出るまでかと思ったんです。

(金田一氏)3時～4時ぐらいの感覚。

(南氏)3時から6時が「明け方」
6時から9時が「朝」
9時から12時が「昼前」
と3時間ごとに機械的に決められています。

(南氏)決めた時間帯に事象があると「未明から朝にかけて雨が降ります」と言います。機械的に決めているので日の出や日の入りの時刻とで言葉のズレが出てくるんじゃないですか?
「明け方」はどうしても日の出前。

(金田一氏)5時とか6時とかねえ?

(南氏)3時から6時を「明け方」にすると、夏はもう4時頃から明るかったりするわけだから「6時で明け方かよ」と思ったりするんです。

(天達氏)ちょっと言葉でフォローしなくしゃいけませんね。

(梶原氏)6時頃とか、夜中の1時頃と言った方が分かりやすいですねえ。

「宵のうち」もよく分かんないですねえ。(ありました。)ありましたって、ないんですか?

(南氏)今はなくなつたんですよ。

(梶原氏)先生、「宵のうち」って素敵ないい言葉ですよねえ。

(金田一氏)「宵のうち」、宵のうちだから…、ちょっと粹な感じが

(梶原氏)それに変わる素敵な言葉って何ですか?

(南氏)「夜のはじめごろ」です。

(福富氏)「よけい分からない」と言われてます。

(南氏)夕方の6時から夜の9時までが「夜のはじめごろ」。それも3時間ごとに区切っているから宵(夜のはじめ)がね、合わなくなっている。

(梶原氏)夜9時というと、小学生に「夜のはじめだから遊んでるよ～」と言われたらどうするんですか。

(南氏)夜の9時から0時までは「夜おそく」です。だからその頃に飲んで帰ると「夜遅く帰った」と言えるんです。(梶原氏:まだ9時5分なのに。)



(金田一氏)どうして決めたがるんですかね、気象庁は。そこが気に入らない。

(天達氏)季節によっても地域によっても違いますよね。

(金田一氏)やっぱり東京が基準でしょう?

例えば、日の出は根室だったら早いし、沖縄だったらもっと遅いし。

(天達氏)東京でも季節でちがいます。

(金田一氏)これだけ南北に長くて東西もあるんだから。

(南氏)いわゆるコンピューター的考え方じゃないのかなあ? 気象庁の予報自体もコンピューターによって予報がでてきますから、時間を区切った方がコンピューターは判断しやすいし、予報も出しやすいんだけど、季節によって変わってきたり、地域によって変わってくると、言葉も全部それに対して用意していくなくてはいけないってことになると。

(金田一氏)全国版の天気予報をされているわけですよねえ。(南氏:ええそうですねえ。)

そうするとすごく難しいでしょうねえ。(南氏:難しいでしょうね。)。全国に今、通用するっていうと、どうしたって東京の人間は、東京のことしかみな

いけど。北海道は北海道でまた広いし、根室は根室でやってほしいって。

(南氏) そうですねえ、気温も全然違いますもんね。釧路と札幌じゃあ、全然違いますもんね。
(金田一氏) なんかでも思わず、東京にいると東京の天気だけやってほしいなんてね。もっとローカルな地域に密着したかたちの天気予報があり得そうな気がするんですよねえ。

(南氏) テレビ・ラジオでは、どうしても広い範囲を対象とした天気予報でして、あとは携帯とかで各個人が対応していくということなんでしょうねえ。まさに時代が変わってきたのかもしれないですねえ。

(梶原氏) 自己責任の迫られる時代だということですね、南さんのお言葉をまとめれば。

しかし、気象の言葉にもちょっといなせな言葉、ちょっと粋な言葉があったらいいなっていう…。
金田一先生みたいな、非常に感性の豊かな先生に入ってもらつてもう一回作り直すっていうのもあるんじゃないですか？

(福富氏) ご指導願いたいですね。

(南氏) どうかお願ひしたいです。

(金田一氏) とんでもない。

(福富氏) 改定したいくらいです。



（梶原氏）「ワイパーが効かない」はちょっと情緒的にどうか…。

(福富氏) 金田一先生の目がキラッと光ってわかったです。

(梶原氏) 「車運転しないやつはどうするんだよう。」

(福富氏) そう目が物語っています。

(梶原氏) あの先生、世界的にみて、先生は外国語大学でずっと日本語教えられましたけど、やっぱりこんなに天気のことを話題にするのは日本独特なんですか？

それとも世界的にもそんなものなんですか？

(金田一氏) やっぱり日本独特なんじゃないですか。こうやって季節が変わりますもんねえ。それで天気がどんどんどんどん変わっていく。それこそシルクロードのど真ん中なんて一年中晴れている(笑)。「晴れてる、晴れてる、晴れてる」で終わっちゃうわけですから。まぁ、それがうれしいわけなんですよね、私たちは。そうやって変わっていく。季節も変わるし天気も変わる、そのうつろいですよねえ。

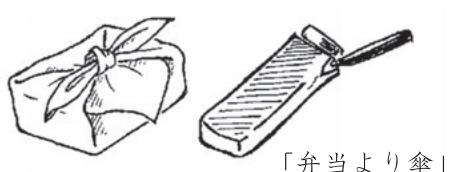


(南氏) そうですね。場所によって全然違いますもんね。日本海側と太平洋側で全然天気が違う。山1つ越えただけで全くこう様相が違うというか。

(天達氏) ま、日本ぐらいですよねえ。こんな島国でこれだけ天気が変わって、季節も変わっていくのは。

(南氏) 天達さん、あちらこちらに行ってやってくるから。

(天達氏) そうですねえ。行くと天気予報のコメントに役立ちます。日本海側へ行くと、冬場に晴れても洗濯物は干せなかったり。



(南氏)洗濯日和なんていっちゃいけないのかあ。
(福富氏)「弁当忘れても傘忘れるな」といいことわざがあります。体感しなきゃだめですね。

-----*-----*

(梶原氏)先生、日本はこれだけ気象が色々さまざまだからこそ言語学的にも非常に多様な言葉、ボキャブラリーを得たということですかね。
(金田一氏)雨ひとつに色んな名前があったりする。風ひとつにも「ヤマセ」とか色々な名前がある。バラエティーがあるわけです。それがどんどんどんどん今なくなっちゃった。全国の天気予報になるとそれが出てこなくなっちゃうんですよね。でもローカルにもう一度戻っていくと、そういう言葉が復活してきて。それやっぱり実感があるんですよ。そのほうが、圧倒的に分かりやすいんですよ。気持ちがいいし。そういう言葉を大切にしてほしいとは思います。でも難しいですよね。言葉じゃないんだもん。これ(天気図)。これを言葉に直すってとんでもないことだし、分かっただけじゃだめでしょう? 伝えなくちゃいけない。それはおっそろしい技術ですよね。

(南氏)ばく思うんですけども、日本人ってけっこう災害にあっても、それをこう受け止めることができる。それを自分で消化できる。僕なんかねえ、自分が天気予報やった日にすごい災害が起きてしまうと心が痛いです。その後テレビ報道をみて、災害が起きた現場のおじいさんに話を聞いたら「まあ、しょうがないよね」という言葉が返ってくるのはけっこうズシンとくるし、何とかしたいんだよね。

(天達氏)未然に防ぐ方法を考えると、近年、温暖化で気象が変わってきていると言われている中では、どうしても伝えるのは悪い方がメインになってしまう。

(福富氏)今朝、天達さんが「台風みたいに3日後には来ると予想できるものは本当に対策十二分にできる」と言っていましたね。竜巻だと急激で難しいですけども。

(梶原氏)天気予報が情緒豊かな言葉だけできれば、ありがたいんですけど。

(天達氏)なかなかそうもいかないという実態もあります。

(梶原氏)みなさんいかがだったでしょう?

言葉のご専門の金田一先生と気象の専門家のみなさんが、本当、汗流して(はい、射合せかもしれませんねえ)一生懸命言葉をつむぎました。「命も大事だし危ない目にあわないよう」にと警告を発したり、「ゲリラ豪雨」という言葉で警鐘を打ち鳴らしたりもなさるのですね。

大変だとよく分かりました。



今日は本当にありがとうございました。

みなさん、どうぞ大きな拍手をもう一度。

(各出演者)ありがとうございました。



動画閲覧先(編集後 YouTube):

<http://www.youtube.com/watch?v=xK9Azv4IioE&feature=relmfu>

◎第三部 季節の言葉で遊ぼう！「お天気クイズ」 気象の知識うそ？ホント!!

司会

梶原しげる氏（フリーアナウンサー）

望月圭子氏（気象予報士）

クイズ出題：お天気キャスター

天達武史氏 南 利幸氏 福富里香氏



【お天気クイズ初級編】

- 雲は氷の粒や水滴でできている
- × 気象予報士は女性ばかりである
- 天気予報は予報が外れそうなときにも発表している
- 気象台ではアブラゼミが初めて鳴いた日を観測している
- × 予報官は必ず下駄を持っている
- × 飛行機雲は飛行機から出る煙である
- × 日本の最高気温 40.9℃は埼玉県の越谷で観測された
- × 特異日とは予報が当たった気象予報士が得意気になる日のことである

【お天気クイズ中級編】

- × 気温は高さ1.5mの日が当たる所で測っている
- 空全体の8割が雲におおわれていても晴れである
- 雨の日でも紫外線は地面に到達している
- × 南西の風とは南西の方向へ吹いていく風である
- 夏場の東京の上空1万メートルの気温は、マイナス40℃ぐらいである
- × 高気圧は平均の気圧(1013hPa)よりも気圧が高い所を言う
- × 热帯夜は最低気温が30℃以上の日の夜のことである
- 夏至の頃に東日本や西日本は梅雨の最盛期に入る
- × 冬至は一年の内で最も寒いころである

【お天気クイズ上級編】

- × 「1時間に50ミリの雨」とは50ミリリットルの雨が降っている
- × 龍巻の風は中心に向かって必ず時計と反対回りに吹き込んでいる
- × 「東京都の降水確率50%」とは、東京の半分の所で雨が降るということである
- 台風の中心に前線がくっつくと温帯低気圧に変わる
- 47都道府県庁所在地の内、8月の気温が一番高いのは大阪である
- × 予報の波の高さは大小さまざまな波を平均した波の高さである
- 太平洋の東(ペルー沖)の海水温が平年よりも低いことをラニーニャ現象と言う
- 春分と秋分では、秋分の方が気温は高い
- 小雪は北陸で雪が降り始める頃である
- × 大雪は西日本で大雪になる頃である
- × 二百十日は、元日から数えて210日のことである
- × 八十八夜は二十四節気の一つである
- 芒種の頃に西日本は梅雨に入る

お天気○×クイズを勝ち抜いた人には賞品が贈られました！

上級編5名…サンシャイン水族館・プラネタリウムの入場チケットセット

中級編5名…希望日のひまわり雲画像パネル

初級編5名…熱中症計

参加賞…じょいわ君缶バッジ